

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2025/9/29

団体名	NPO法人 志塾フリースクール ラシーナ	活動タイトル	中高生の夜の居場所事業		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体が実現したいのは「誰もが安心できる場所で自分らしく学び成長できる社会」である。 具体的にはこども1人ひとりが抱える悩みや問題について大人がきちんと向き合い、ありのままの子どもたちを尊重することで、自信や自己肯定感を取り戻し、人との交流や様々な経験を通して、自分らしく生き生きと暮らせるような社会を目指す。		調理実習 手巻き寿司パーティーをするために分担して調理しました。		
●団体の社会的役割(ミッション)	「不登校を死語にする」を究極目標に、不登校や引きこもりなどの悩みを持った子供、思春期特有の悩みをもつ若者、その家族、再出発をしたい人のための援助、協力に関する事業を行い、こどもたちの多様な成功体験をつくることです。 具体的には 1)年齢や学年にとらわれず、わからないところからさかのぼって学習をすすめる個別学習支援の実施。 2)合宿や文化祭などのイベントや音楽、アート、プログラミングなど様々な体験活動の提供。 3)悩みごとの相談や日常での対話などきめ細やかなコミュニケーションを行い、こどもとの信頼関係を構築し、誰もが安心できる居場所をつくる。				
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：広報やファンドレイジング等営業活動を担える常勤スタッフがおり、当団体の活動を周知でき、多くの方から安定した支援を受けられる状態を維持できること。 ●望ましい物的資源：こども食堂で使用する食材や、無償の学習支援で使用する教材や学習用のPCなどの物品が寄贈される地域コミュニティや企業との関係性が構築されること。 ●望ましい活動資金：補助金や助成金だけでなく、自主事業や寄付、会費による財源を確保し、事業を拡充するため新規事業への開発や人材育成などの投資を行える状態。 ●望ましい情報：こどもたちが抱える悩みや困りごとについての課題をスタッフ間で共有し、支援のノウハウをマニュアル化し常に改善が行われること。広報やファンドレイジングについても同じく、再現性の高い手順を新しいスタッフにも共有されること。				
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
地域の子どもたちを支えるため、様々な活動を実施した。まず、無償で食事を提供することも食堂として「よなよなサテライト」では、フリースクールなどを利用している不登校の児童や貧困世帯の児童を中心に、近隣でこども食堂を運営している主婦層のボランティアスタッフが中心の団体が調理した食事をお弁当としていただき、そのこども食堂とも交流を深めながら安全・健康のサポートを行った。加えて、学習支援活動では、一人ひとりの理解度や進度に合わせた個別指導を行い、自信と自己肯定感を育むことに努めた。料理実習や進路学習、ボランティアスタッフによる特別講座など多様な体験活動を通じて、子どもたちが好きや得意を見つける機会を提供。広報活動の充実を図り、特にSNSを活用したアウトリーチを強化。また、営業活動にも取り組み、近隣の中学校・高等学校や区役所にも作成したチラシの配布。それ以外にもボランティアスタッフへのアンケートの実施や研修会など、組織基盤の強化にも取り組んだ。			●人的資源：広報などの営業活動を担える常勤スタッフがおり、当団体の活動を近隣の他団体にも周知でき、多くの方から安定した支援を受けられる状態を維持している。 ●物的資源：こども食堂で使用する食材の一部や体験活動の機会を提供してくれる地域コミュニティや企業との関係性が構築されている。 ●活動資金：補助金や助成金だけでなく、自主事業や寄付、会費による財源を確保し、貧困世帯を支援する事業を拡充するために使える状態。 ●情報：こどもたちが抱える悩みや困りごとについてアンケートによる調査を行い、スタッフ間で共有し、支援の改善を行っている。広報についても同じく、広報活動の詳細を共有し、手順もスタッフ・ボランティアスタッフにも共有している。 ●体験活動：スタッフ・ボランティアスタッフによる個性を活かした短時間の講座を行い。進路選択においても子どもたちの助けとなる活動ができた。 ●学習支援：年齢や学年にとらわれず、わからないところからさかのぼって学習をすすめる個別学習支援の実施。		
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題		
夜間の子どもの居場所運営を通じて得られた知見として、まず安全管理の強化が挙げられる。入退室の確認や衛生管理方法を整備し、職員間で共有することで、子どもが安心して滞在できる環境を確保することが可能となった。また、ボランティアについては、役割を明確化したうえで研修や振り返りの機会を設けることにより、支援の質の向上につながった。さらに、地域の子どもの居場所、中学校、高等学校、その他の事業所との連携を強化することにより、食事提供や体験活動にとどまらず、多様な支援を備えた包括的な体制が形成された。これらの取り組みは、持続可能な運営の基盤として必要であると考えられる。			「誰もが安心できる場所で自分らしく学び成長できる社会」の実現には、貧困や家庭環境に起因する課題が複雑に絡み合って存在しており、家庭の経済的困難は学びや体験の機会を減らし、保護者の長時間労働による孤立は子どもの安心を奪ってしまう。教育や福祉の支援は複雑かつ不十分な部分もあり、必要な子どもに届きにくく、地域差もある。こうした課題を解決していくには、家庭外の大人や地域とつながれる包括的な仕組みが必要である。		
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）					
この1年間の活動を通じて	子どもの利用回数が週2日開催で合計322回	を達成しました。			
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）					
ボランティアスタッフより、「参加することでこちらも元気をもらえる。」とメッセージをいただいています。 利用者より、「ここに来ればやることがあって、課題もできる。」とメッセージあり。					